

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2004.4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



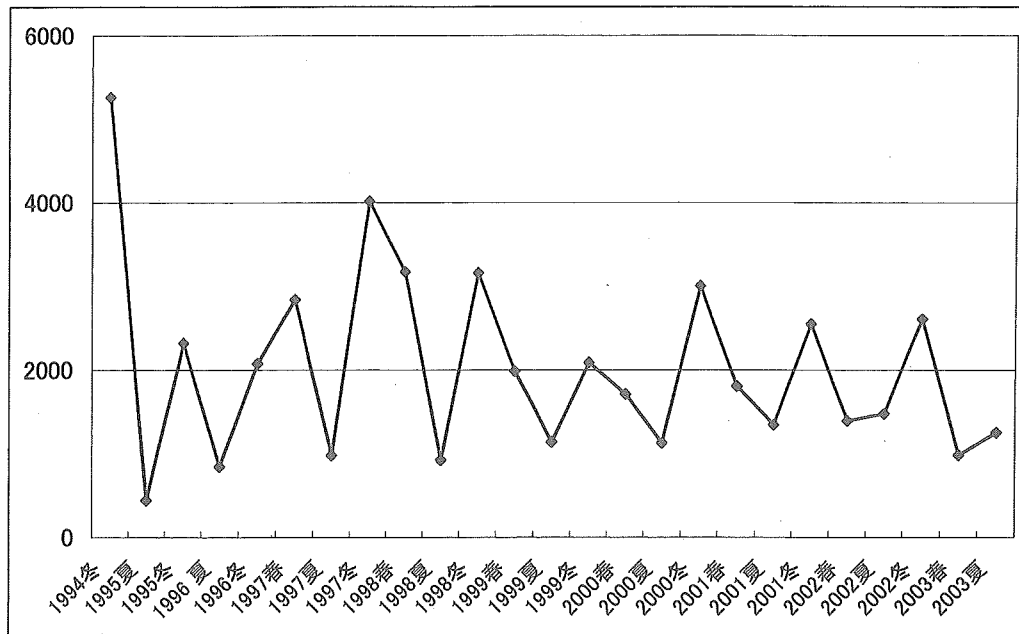
NO. 240

日本野鳥の会埼玉県支部



図1 県内ねぐら5ヶ所の個体数変動

(日本野鳥の会自然保護室 未発表資料より)



日本野鳥の会自然保護室の未発表資料を  
図1に示す。

(4) 繁殖地の個体数変動

(日本野鳥の会2003)より武蔵丘陵森林公園の山田大沼のねぐら入りデータを表1に示す。

(5) 2004年カモ科調査時のカワウ個体数

2004年1月中旬調査の個体数を表2に示す。ただし、休日調査のため、人出でカワウが逃げ少なめの値と思われる。

カワウ生息の問題点と現状

(1) 一般論

i) 内水面漁業における食害

カワウの分布が内水域へ拡大する事により、遊漁業や養殖業への悪影響が懸念されている(全国内水面漁業協同組合連合会1997)。

ii) 繁殖地における森林被害

樹上営巣による落葉、落枝のため葉量低下を招き樹勢が衰える。糞の落下による土壌変化が起こる。その結果、繁殖地の樹木枯死がひん発する(カワウ・ワーキンググループ2000)、(大園2003)。

(2) 埼玉県現状

i) 有害鳥獣捕獲

埼玉県では実施されていない。内水面漁業協同組合より実施要望が県へ寄せられている。群馬、栃木、神奈川の各県では実施。茨城、千葉は試験捕獲のみ。東京は未実施。

ii) 森林被害の対策

埼玉鳴場(越谷市)など県内の複数の場所で、繁殖期の人による追い出しが過去、数回実施されて来ている。

おわりに

埼玉県内のカワウ個体数は近年、図1に示すように飽和または幾分、減少傾向にある。カワウ1日の行動圏が最大値で片道50km、県内だけでなく関東地方一円の個体数変動を考慮しなければならない。

本稿で述べた埼玉県の現状を踏まえ、繁殖地の森林や内水面漁業に対する対策を検討する必要がある。このとき最も重要な観点は、水生昆虫、魚類、水鳥等の水生動物、そしてそれらを育む河畔林や湿原などの植生を包含した河川および湖沼生態系の回復である。その中で野生生物と人との共存の道を探りたい。

→ (次頁下段へ続く)

# 野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

## ●アビを追加

分類 アビ目アビ科アビ属

英名 Red-throated Diver

米名 Red-throated Loon

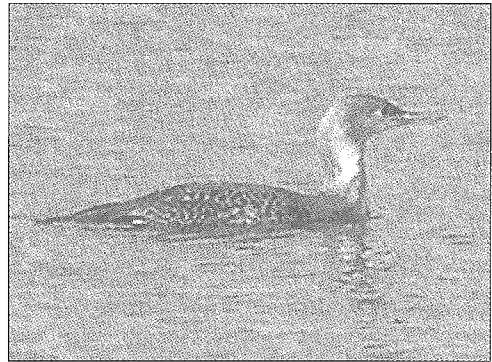
学名 *Gavia stellata*

2003年11月16日(日)所沢市狭山湖で2羽が複数の観察者に目撃され、小林ますみさんから写真が寄せられました。残念ながらその写真では、拡大して見ても、アビであると同定することはできませんでした。

その後小林さんから竹村秀雄さん(奥多摩支部)が同じ日に撮影した写真(右2枚を含む3枚)が送られて来ました。

あらためてその写真で検討した結果、例えば榎本秀和委員のコメントにある「小ぶりの頭の形状、首の細さと長さ、上に反り返って見える嘴、前頸に見られる赤褐色部分、周囲が白っぽく、クリッと見える目の感じ」などから、アビとして記録するべきであると、委員会として判断しました。

本種は北半球の亜寒帯と寒帯の湖沼で繁殖し、日本には冬、北海道から九州の沿岸に飛来します。内陸である本県では今まで記録

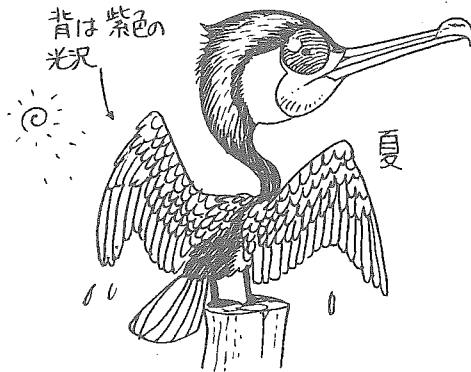


されたことがなく初めての確認記録、県内野鳥目録315番目の追加です。

## 謝辞

本稿作成にご協力を頂いた本部自然保護室加藤七枝氏に感謝を申し上げます。

(小荷田行男)



カワウ(富士鷹なすび)

## 文献(発表順)

小荷田行男 1989 埼玉におけるカワウの動態 -1989年冬鳥分布調査- しらこぼとNo.61 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

埼玉県生態系保護協会 1990 カワウ ナチュラルアイ No.144 大宮

全国内水面漁業協同組合連合会 1997 野鳥の食害いよいよ深刻化 -地域は全国の河川に及ぶ- ないすいめん No.9

カワウ・ワーキンググループ 2000 カワウを通じて野生生物と人との共存の道を探る -鳥害問題への対応の方向性- 日本野鳥の会研究センター 日野

成末雅恵、加藤七枝 2001 カワウの生息分布の変化と国内移動状況 平成12年度鳥獣害性対策調査 カワウ保護管理方策検討調査報告書 環境省 東京

日本野鳥の会 2003 平成14年度カワウ実態把握等調査業務報告書 国土交通省関東地方整備局国営武蔵丘陵森林公園管理所 滑川

高木憲太郎、古南幸弘、加藤七枝、福田道雄 2003 カワウの衛星追跡 2003年鳥学会大会要旨集

大園享司 2003 カワウの営巣にともなう土壌菌類群集の変化 -富栄養化の影響- 土壌微生物生態学 朝倉書店 東京



**久喜市菖蒲公園** ◇12月31日、昭和池でトモエガモ♂4羽（ウダガワタケオ）。

**蓮田市黒浜** ◇1月9日、ゴルフ場の森でオオタカ2羽飛翔。大きさが異なるように思えたのは♂♀か？ 療養所内でキクイタダキ2羽。1月14日、下沼南の畦道でオオジュリン2羽、こんな所にもいるんですね。1月19日、上沼南側の木でオオタカ若鳥1羽、療養所内でキクイタダキ2羽、ルリビタキ♀1羽、ハイタカ1羽。1月26日、療養所内でキクイタダキ2羽、ルリビタキ♀1羽、トラツグミ1羽など。上沼南東の田んぼでタヒバリ22羽十。2月5日、療養所内で「ケレレレ」と鳴いて飛んで来たアオゲラ1羽。キクイタダキが見つからなくなってしまった（鈴木紀雄）。

**岩槻市長宮** ◇1月12日、畦道でホオアカ1羽。昨冬は3羽いたが、今年は1羽のみ（鈴木紀雄）。

**岩槻市岩槻文化公園** ◇1月12日、元荒川でヒドリガモ群れ中にヨシガモ♂1羽、日に輝く緑のナポレオンハット美しい。2月9日、葦原でオオジュリン約5羽、南西上空でカラスに追われるノスリ1羽、トビが西へ。ハイタカ1羽、ヒヨドリ40羽十の群れを散らしてから上空旋回。元荒川のヒドリガモの群れが落ち着かずには飛び回ると思っていたら、上空にハヤブサがいた。やがて東へ去った。2月10日、元荒川でセグロカモメ1羽。今冬はカモメ類が少ない。2月18日、元荒川でヨシガモ♂♀、オオタカの



ヒヨドリ（編集部）

美しい成鳥がハシブトガラス約10羽と追いつ追われつ。31種（鈴木紀雄）。

**岩槻市岩槻公園** ◇1月13日、ルリビタキ♂1羽。1月15日、オジロビタキ1羽、大雨覆、三列風切羽縁が淡色なので第1回冬羽と判断。チョコマカと低い所を動き回っていた。この後1/16、1/18、1/19、1/20、1/23にも確認。1/26にはオジロビタキがルリビタキ♂1羽を追いかけていた。1/28、2/4、2/5、2/9とオジロビタキを確認。カメラマンの餌づけにウンザリ。2/13、2/18とルリビタキ♂成鳥をオジロビタキが追いかけるのを確認（鈴木紀雄）。

**岩槻市高曽根** ◇1月21日、ケリ3羽（鈴木紀雄）。

**岩槻市城北大橋** ◇1月26日、元荒川上流側でオナガガモ♂14羽♀7羽（鈴木紀雄）。

**春日部市内牧** ◇1月23日、宮代側でトラツグミ2羽、アカゲラ♂2羽♀1羽、ヤマガラ1羽、ノスリ1羽など。2月3日、ハイタカ♂1羽、枝にとまっているのをプロミナでじっくり観察。声から察するにさらに1~2羽、猛禽がいた模様。ベニマシコ、アカゲラの声もしていた（鈴木紀雄）。

**松伏町大川戸（緑の丘公園）** ◇2月3日、池でミコアイサ♂2羽、オオタカ若鳥1羽、池の杭にとまる。真下をカモ達が平気で泳いでいた。ホオアカ3羽十、チョウゲンボウのホバリング、カシラダカ多数（鈴木紀雄）。

**戸田市道満** ◇1月10日、彩湖でヨシガモ♂♀約10羽（小林みどり、松井昭吾、神奈川支部会員3名）。

**さいたま市桜区田島** ◇1月27日、鴨川中洲でタゲリ約20羽、イカルチドリ6羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬** ◇2月6日、子供の森でルリビタキ♂1羽。ピクニックの森でアカゲラ♀2羽（鈴木紀雄）。◇2月9日、桜草公園入口駐車場用地でタゲリ2羽（陶山、岩井）。2月17日、同所でタゲリ52羽（陶山和良）。◇2月17日、子供の森でアカゲラ、アカハラ（陶山和良）。2月20日、

同所でトラツグミ、ルリビタキ♂、カケス（陶山、岩井、尾崎）。2月29日、同所でヒレンジャク1羽、月初めに情報を得て通うこと5回、やっとヒレンジャクをゲット。セットされた水場での水飲み。納豆状の糸を引いた排便も観察できた。休日とあってカメラマンの多い事。人気？振りがうかがえる。トラツグミ、アカハラ、シロハラ、カケスも観察できた（陶山和良）。◇2月17日、ピクニックの森でシロハラ、カワセミ、ジョウビタキ、コサギ、ハシビロガモ、オオタカ（陶山和良）。

**小川町木呂子** ◇12月29日午後1時30分～3時30分頃、ベニマシコ♂♀7～8羽、マヒワ約50羽、ルリビタキ♀1羽、カシラダカ約30羽、シロハラ1羽、エナガ、シジュウカラ、コゲラ、ツグミ、メジロ、ジョウビタキ、シメ、アオジ、ホオジロ、オオタカ、ガビチョウなど（後藤康夫）。

**渡良瀬遊水地** ◇1月1日午後1時30分～4時40分頃、コチョウゲンボウ♂♀5羽、カラスをさかんにモビング。ハイイロチュウヒ♀3羽、チュウヒ1羽、ミサゴ2羽、チョウゲンボウ1羽、トビ5～6羽、ベニマシコ（後藤康夫）。◇1月10日午後3時過ぎ、鷹見台南東土手沿いでコミミズク3羽、初めからいたのだらうが、飛ぶまでわからず。他にハイイロチュウヒ♂2羽、♀約3羽、コチョウゲンボウ、ミサゴ4羽、ハイタカ1羽、オオタカ1羽など（鈴木紀雄）。

**川島町小見野** ◇1月3日午後12時30分～4時30分頃、チョウゲンボウ1羽、ネズミを捕らえ、ゆっくりと食事して飛び立つ。ベニマシコ3羽、タゲリ約15羽、ノスリ、タヒバリ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカな



ウミアイサ♂（編集部）

ど。午後3時頃、コミミズク1羽出現。土手の両側をゆっくりと飛翔（後藤康夫）。

**富士見市** ◇1月12日午後4時頃、立教大学野球グラウンド内でタゲリ4羽。立派な冠をつけた美しく、りりしい鳥でしたが、かなり人を恐れる様子で、30分余りで浦和方面へ飛び去りました（桑木野）。

**所沢市中富南** ◇2月6日午前11時頃、住宅地でツミ1羽。ハナミズキの木にとまっていたのですが、今は葉が無いためとてもよく観察することができました。黄色の丸い目、羽の白い斑点、腹の茶色の縞等々。この辺りは雑木林を切り開いて新しい町が造られた処ですので、まだ周囲には多くの林が点在しています。そのせいか野鳥も比較的多く見ることができます（金指順子）。

**坂戸市浅羽** ◇2月19日、高麗川の土手と工事中のスーパー堤防に挟まれた狭い枯れ草地でハチジョウツグミ1羽。胸から脇の斑点がツグミの黒と違って赤褐色である。体上面も灰黒褐色で、羽縁は栗色ではない。尾羽は赤褐色で、50m範囲内で終日行動しているようでした（北村隆、増尾隆、林久美子）。◇2月20日午前8時頃、ハチジョウツグミ1羽、肩斑がツグミの白色と違って淡赤褐色である（坂口稔）。

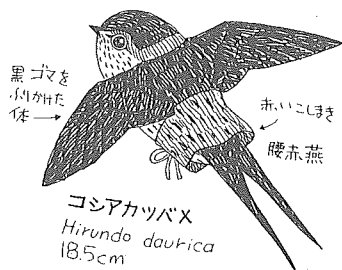
表紙の写真

カワアイサ（カモ目カモ科アイサ属）

英名 Goosander または Common Merganser 学名 *Mergus merganser* 北海道で少数繁殖するが、日本には主に冬飛来し、亜種オオカワアイサ、亜種カワアイサの2亜種が記録されている。北アメリカには別の亜種アメリカカワアイサが分布しているが、これはまだ日本では記録されていない。県内では渡良瀬遊水池、坂東大橋下流など、比較的広い水面で潜水を繰り返していることが多い。

写真：松村禎夫 解説：編集部

# 行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出てください。

## 所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、池内、高橋(優)  
見どころ：鳥たちの渡りの時期です。カモ類との暫しの別れを惜しみつつ、移動途中の珍客との束の間のお出でに期待しましょう。湖畔の桜も見頃です。

## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。  
交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて「自然観察公園前」下車。  
担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：春から夏にかけて吹く東の風を「こち」といいますが、これを、「あいかぜ」との異名で呼ぶ地方もあるとのこと。今回は鳥と桜に春を感じる探鳥会です。季節のものとはいえ、強風は吹きませんように。

## さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<ヘルシーロードコース>

期日：4月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前  
交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、

大崎園芸植物園行き8:31発、または東川口駅北口行き8:39発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園  
担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)、赤堀  
見どころ：春のお花見探鳥会です。右を見て→花、左を見て→花、上を見て→ツバメ、下を見て→カモやツグミたち。来る鳥、帰る鳥、とにかくいろいろです。

## 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場

交通：東武日光線新越谷7:11→春日部7:25→栗橋7:54→柳生8:04着。またはJR宇都宮線大宮7:08→栗橋7:43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。  
担当：橋口、玉井、田邊、田中、中里、内田、四分一、伊藤(隆)

見どころ：今シーズンは谷中湖の干し上げで残り鴨の期待はできませんが、谷中村史跡の林で羽を休める渡り途中の鳥を探します。春とはいえ風が冷たいので防寒対策をしてお出かけください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月11日(日)

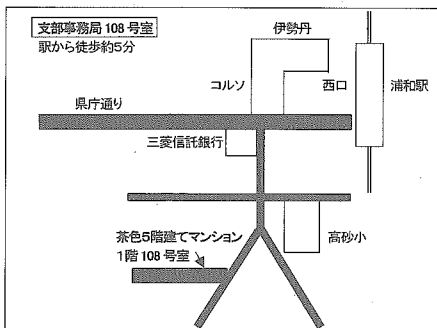
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居  
8：49発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、石井(博)、  
倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、  
飛田、新井(巖)

見どころ：暖かになった陽射しを浴びながら、  
桜散る大麻生の堤を歩きましょう。身  
近な小鳥たちも繁殖期を迎え、美しい  
さえずりを聞かせてくれるでしょう。  
もちろん夏鳥も探しながら……。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月17日(土)午後1時～2時ころ  
会場：支部事務局108号室



### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月18日(日)  
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東  
口、集合後バスで現地へ。または午前  
9時、さいたま市立浦和博物館前。  
後援：さいたま市立浦和博物館  
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、  
若林、兼元、清水、小菅、新部  
見どころ：桜が散って見沼田んぼは緑一色に  
なる。新学期の小学生が代用水の小道  
を歩くころ、鳥たちは繁殖期を迎える。  
巣作りの鳥たちの生きる喜びが伝わっ  
てくるようだ。そんな見沼にお出かけ  
ください。

### さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月25日(日)  
集合：午前9時10分、諏訪前橋バス停付近。  
交通：京浜東北線浦和駅西口バスロータリー

5番乗り場から、荒川総合公園行き  
8：40発にて「諏訪前橋」下車。

担当：倉林、小林、百瀬、渡辺(嘉)、森(秀)、  
新部、赤堀

見どころ：空青く日はうらら。秋ヶ瀬にもそ  
ろそろ夏鳥の到来。昨年のようにキビ  
タキ、オオルリが出てほしい。

### 東松山市・物見山探鳥会

期日：4月25日(日)  
集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越  
えた右側)  
交通：東武東上線高坂駅西口から、東武バス  
鳩山ニュータウン行き8：46、9：00  
発にて「大東文化大学前」下車、徒歩  
約5分(バス進行方向へ進みます)。  
担当：藤掛、岡安、後藤、島田、志村、立岩、  
増尾、池永、山田(義)、高橋(優)  
見どころ：動きの早い里山の鳥を追い、ウグ  
イスの声をききながら、若葉の林を歩  
きます。新しい緑や花々も脳裏やデジ  
カメに残してみませんか。

### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日(木・祝)  
集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅  
西口朝日バス1番バス停前。または午  
前9時10分、アスレチック公園前駐車  
場。  
担当：吉安、中村(榮)、橋口、石川、廣川、  
松永、宮下、吉岡(明)、田村、新井(良)、  
野村(弘)、野村(修)  
見どころ：新緑の林を抜けるそよ風がさわ  
やかな季節を迎えます。別れを惜しむ冬  
鳥たちと、そろそろやってきた渡り途  
中の夏鳥との再会に期待しましょう。

### シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(木・祝)  
埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシ  
ギ・チドリ類の調査を行っています。とくに  
下記の地点では、より多くの会員の参加・ご  
協力をお願いいたします。  
◆秋ヶ瀬(さいたま市)



集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角  
近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

#### 長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月8日(土)～5月9日(日)

集合：8日午前7時30分、JR高崎線熊谷駅  
南口駅前ロータリー。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

費用：20,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合駅までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(先着順、最低催行人員15名、支部会員優先)

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、小池一男

担当：小池(一)、岡安、小池(順)

見どころ：春の白馬は野鳥、山野草、昆虫などの大自然がまるごといっぱいです。アフターの温泉もいいですよ。

注意：1日目の昼食と雨具は必ず持参。ハイキングのできる足揃えで。宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

#### 神泉村/城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：5月8日(土)～9日(日)

集合：8日午後2時50分、JR高崎線本庄駅南口。集合後バスで現地へ。または午後5時現地宿舎。参加者には詳細通知。

解散：9日午後1時頃、現地にて。

費用：10,500円の予定(1泊2食付宿泊費、9日昼食代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合駅までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(先着順、支部会員優先)。

申込み：普通葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、橋口長和(〒344

担当：橋口、入山、玉井、中里



シメ(編集部)

見どころ：新装オープンになった神泉村の村営の「冬桜の宿 神泉」に泊まり、早朝の4時から県内では数少なくなったクロツグミ、アカハラ、キビタキなどのバードコーラスのシャワーに期待します。

注意：8日は集合のみで探鳥会は行いません。宿泊は、男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

#### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月22日(土)～23日(日)

集合：22日午前9時00分、長野駅コンコース、新幹線改札を出て右側。

交通：「あさま551号」東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→本庄早稲田7:43→高崎7:53→長野8:47着、または「あさま1号」東京7:28→大宮7:52→長野8:53着。

費用：11,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料等)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

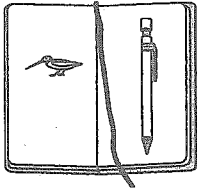
定員：30名(先着順、県支部会員優先)。

申込み：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、菱沼一充(〒349-イツ202号室)まで。

担当：菱沼、北川、藤掛、中里

見どころ：5月後半になるとほぼ夏鳥たちがそろいます。キビタキ、コルリ、クロジ、サンショウクイなどの姿とコーラスを期待しましょう。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。



# 行事報告

12月7日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ オオバン タゲリ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) カモ類全体の数が例年に比べ少なく、10月の探鳥会には訪れていた潜水ガモの姿がない。代わりといっはなんだがコハクチョウの一家が羽を休めていた。猛禽が多く出現し、チュウヒはゆったりと茅原の上空を遊弋し、遠くにハイロチュウヒの姿も見えた。(橋口長和)

12月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ キジバン イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (36種) 平成15年も無事終了。今年は参加者が多様化して、楽しかった。老若男女が集まり、鳥を見た。見沼たんぼの風景がこころを和ませてくれた。感謝、感謝。(楠見邦博)

12月28日(日) 加須市 はなさき公園

参加: 38人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ キジ クイナ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 富士山がくっきりと見える中スタート。池ではハシビロガモを順光でじっくり観察。植物園では冬鳥たちが勢揃い。取り分けジョウビタキが多かった。チョウゲンボウはいつもの場所で皆を楽しませてくれた。最後にカワセミが出て締めくくり。定番のシラコバトが見られなかったのが残念だった。穏やかな天気恵まれ、年の瀬のひとつときを楽しく過ごした。(中里裕一)

1月3日(土) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ コジュケイ バン オオバン キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 1年前とは大違いの暖かさ。朝の集合前からコジュケイの音が響く。ジョウビタキとカケスが多い。コサギの連続出現記録が初めて途絶えて、タゲリはついに2年連続ゼロ。それでも過去最多タイ記録の41種。この種数には入らないが、探鳥会終了後の野外懇親会には、アルコール入りの顔を太陽に温められて、にわかアカショウビンが多数出現。

公園の片隅に、歌声が響いた。(海老原美夫)

1月4日(日) 千葉県船橋市 船橋海浜公園

参加:51人 天気:晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ  
ダイサギ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガ  
モ ホシハジロ スズガモ コオリガモ ホオジ  
ログモ ビロードキンクロ ウミアイサ ミヤコ  
ドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン ハ  
マシギ ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ  
カモメ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒ  
ヨドリ ツグミ シジュウカラ メジロ オオジ  
ュリン スズメ ムクドリ (32種) スズガモ、ミ  
ヤコドリが日本で一番集まる三番瀬を見た後、東  
の突堤から珍鳥コオリガモとビロードキンクロを  
探して楽しんだ。天候に恵まれたのは参加者の人  
徳。(杉本秀樹)

1月7日(水) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加:42人 天気:晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ  
モ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガ  
モ ヒドリガモ オナガガモ ハシビログモ ホ  
シハジロ バン キジバト カワセミ コゲラ  
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シ  
ロハラ ウグイス エナガ シジュウカラ メジ  
ロ ホオジロ カシラダカ アオジ シメ カケ  
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 寒  
い七草の日。ルリビタキ♂、アオジ、シメ等を見  
ながら山田大沼へ。トモエガモ♂2羽、ヨシガモ  
♂にくぎ付け。カモ10種を観察後、中央口の多目  
的ホールで鳥合わせ。帰り道、探鳥会では未確認  
のノスリ、ハイタカ、ヤマガラ等と、梅、福寿草、  
ロウバイを観賞した人たち。(藤樹保司)

1月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:27人 天気:

カワウ ダイサギ コサギ ミサゴ ノスリ キ  
ジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレ  
イ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ  
ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ  
ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ  
ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム  
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30  
種) 今年1年楽しい探鳥会を願ってスタート。階

切を渡って土手に上がると遥かかなたに真っ白な  
八ヶ岳の頭が見える。新年らしく何かすがすがし  
い気持ちになる。河原に出るとミサゴが上空を行  
く。カワセミも姿を見せてくれた。野鳥の森に入  
ると梢にノスリが止まっていて、じっくりと観察  
できた。鳥合わせ直前になってルリビタキが顔を  
出してくれて皆をにぎわしてくれた。天気に恵ま  
れてののんびり探鳥会だった。(中里裕一)

1月11日(日) 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池

参加:63人 天気:晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイ  
サギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ト  
モエガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカ  
ヒドリ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジ  
ロ ホオジログモ チョウゲンボウ バン オオ  
バン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレ  
イ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ オ  
ジロビタキ シジュウカラ メジロ アオジ オ  
オジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハ  
シボソガラス ハシブトガラス (37種) 昭和池は  
トモエガモがお目当てだが、今回はオジロビタキ  
の人气が高かったせいか参加者も多く6班に分け  
て時差スタートした。その結果オジロビタキやト  
モエガモを全員でゲットでき、ラッキーな探鳥会  
となった。(大坂幸男)

1月12日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加:37人 天気:快晴

ダイサギ コサギ オオタカ キジバト コゲラ  
ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ  
ドリ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグ  
ミ シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ  
スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガ  
ラス ハシブトガラス (24種) 前日と打って変わ  
り、風もなく穏やかな鳥見にはもってこいの陽気。  
スタートの池では鳥影は少なかったが、せせらぎ  
ではムクドリとヒヨドリが水浴びをしているのを見  
つけた。アスレチック広場でモズやシジュウカ  
ラの群れをスコープに入れ、じっくり観察。真上  
で探餌していたコゲラを首が痛いといいながら見  
入る。お墓の小道でいつものようにカケス、シロ  
ハラがでてくれた。田んぼではカワラヒワの群れ、  
タヒバリが出た。参加した子供たちも大変喜んで  
くれ、楽しい探鳥会であった。(吉安一彦)

## 連絡帳

### ●鳥インフルエンザと野鳥

「野鳥の病気が人に感染することはありません」と、(財)日本野鳥の会本部のホームページで呼びかけています。

それによれば、今問題になっているいわゆる「鳥インフルエンザ」というのは、実は「高病原性鳥インフルエンザ」というもので、もともと自然界に存在してほとんど病原性のない鳥インフルエンザウイルスが、ニワトリなどに感染した後に変異して発生すると考えられています。

野鳥の鳥インフルエンザは通常では人に感染しないと言われていて、まして、高病原性鳥インフルエンザが、野鳥から直接人に感染した例はありません。高病原性鳥インフルエンザが人に感染した例は、家禽の大量の糞などと濃厚な接触があった場合に限られます。

そもそも高病原性鳥インフルエンザの発生を防ぐには、野鳥の鳥インフルエンザの家禽への感染を防ぐのが最初に必要です。そのためには、野鳥を捕獲して家禽のいる場所に持ちかえることや、捕獲の動機となる野鳥の国際取引を即刻やめるべきです。

一方、このことに関する状況は刻々と変化しています。以上の記述も「現在までに分っている範囲では」という前提が付いています。ですから、この後は「念のため」という話になりますが、例えば野鳥が餌付けされている場所などに糞が多くある場合は、人もベットも近寄らないようにして、靴、手足などを洗う用心をした方が良いでしょう。

「野鳥が死んでいるのを見かけた場合、鳥インフルエンザ以外の様々な細菌や寄生虫などの原因も考えられますので手で触れず、ビニール袋で封をして廃棄物として処分することも可能ですが、不安な場合は保健所などへご連絡ください」と、県農林部の方から連絡

も届いています。

### ●普及活動の報告

1月25日(日)と2月1日(日)本庄市旭公民館主催「親子自然観察教室」で指導。町田好一郎。

2月1日(日)比企郡嵐山町、嵐山里やま大学運営委員会主催「野鳥観察会」で指導。後藤康夫・北村隆・新井巖。

2月8日(日)児玉郡神泉村教育委員会主催「野鳥観察会」で指導。町田好一郎。

2月8日(日)比企郡小川町、県立小川げんきプラザ主催「野鳥観察会」で指導。後藤康夫・北村隆・新井巖・青山紘一・大澤祐。

2月23日(月)と24日(火)さいたま市植竹公民館主催「バードウォッチング教室」で指導。工藤洋三・松村慎夫・赤坂忠一。

### ●4月の事務局 土曜と日曜の予定

3日(土)5月号編集作業。普及部会議。研究部会議。

10日(土)4月号校正(午後4時から)。

17日(土)袋づめの会(開始時間の変更を検討中。4月は従来通り午後1時から)

18日(日)役員会。

### ●会員数は

3月1日現在2,490人です。

## 活動報告

2月14日(土)3月号校正(大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司、山田義郎。13日に海老原美夫も)。

2月14日(土)本部理事会に出席(海老原美夫、楠見邦博)。

2月15日(日)役員会(司会:田邊八州雄、各部の報告・行事予定など)。

2月23日(月)支部報だけの会員向け、3月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

しらこぼと 2004年4月号(第240号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社